

野生絶滅種などが続々と開花！

薬学部附属薬用植物園 ナルトオウギやルイボス

摂南大学（学長：荻田喜代一）薬学部附属薬用植物園では、国内では極めて開花・結実が珍しい薬用・有用植物や、絶滅が危惧される日本の野生植物が次々と見ごろを迎えています。

【本件のポイント】

- ルイボスティーの原料ルイボスや野生絶滅種のナルトオウギなどが続々と開花。
- 今秋には、誰でも参加できる薬草見学会を3年ぶりに再開予定。



左からルイボス（マメ科）、キボウホウロカイ（ユリ科）、ナルトオウギ（マメ科）

同植物園は、摂南大学薬学部の学生と教職員の教育・実習及び研究を目的に設置された学部附属施設で、日本薬局方収載生薬の基原植物や有用植物を多数栽培しています。

今年度は、キャンパスの一面に新設されたドライガーデン（乾燥地植物区）で、日本ではめったに見られないルイボスティーの原料「ルイボス（マメ科）」や、生薬アロエの基原植物「キボウホウロカイ（ユリ科）」が開花・結実しました。現在は、国内で野生絶滅となっている「ナルトオウギ（マメ科）」が薬草園で開花している他、生薬ヤクチの基原植物「ヤクチ（シヨウガ科）」や「マンゴー（ウルシ科）」が温室で、「アーモンド（バラ科）」が薬樹園で、それぞれ実をつけています。ナルトオウギの開花は今月中、それ以外の植物の結実は来月にかけて観察できる見込みです。今秋には、本学の地域貢献活動として好評の「秋の薬草見学会」を、3年ぶりに再開する予定です。

▼摂南大学薬学部附属薬用植物園 Web サイト

<https://www.setsunan.ac.jp/~p-yakuso/>

■内容に関するお問い合わせ先

摂南大学 薬学部薬学科 講師 伊藤優 TEL:072-866-3145（不在の場合は広報室へ）

■本件発信部署・取材のお申し込み先

学校法人常翔学園 広報室（担当：坂上、上田）TEL:072-800-5371 携帯:090-3038-9892